田原の滝

この滝は、富士山の噴火跡に、桂川が流れ始めたときに形成されました。いずれの側の岸壁にも、溶岩が突然冷却されたときに入った垂直の亀裂によって形成された石柱が見えます。

現在の滝の外観は19世紀から大きく変化しました。 人々が覚えている限りでは、それは上下2段で構成され、下の段から20メートル水が落下し、幅は7メートルだったと言われています。 当時は25キロ離れた上野原からも音が聞こえたようです。 しかし、1898年に、両岸が侵食によって崩壊し、下の段は破壊されてしまいました。 その後、1923年の関東大震災で東京の大部分が被害を受けたときに、この滝の崩落も進み、水の落下位置が30メートルほど後退しました。 最後に、1956年には浸食を防ぐため人工堤防が設置され、現在の形となりました。